



企業協賛・個人協賛・その他協力者等(関わってくださった方々)

企業協賛

久原本家グループ/株式会社 福岡銀行/新日本製菓株式会社/株式会社 西日本シティ銀行/溝江建設株式会社/株式会社 矢野特殊自動車/リックス株式会社/株式会社ランテック/福岡倉庫株式会社/福岡パッケージ株式会社/木下建材産業株式会社/大光電機株式会社/株式会社日能研九州/國松石材株式会社/株式会社 鞠智/内山緑地建設株式会社/株式会社サカイ引越センター

出光美術館

レストランコントロール/レストランビストロ

個人協賛

上田哲夫/清水舞子/青柳道夫

その他協力団体

宗像歴史観光ボランティアの会/福岡教育大学/東海大付属福岡高等学校/日本赤十字九州国際看護大学/

久山町/福岡県観光連盟/K2水産

2022年 実行委員会メンバー

会長:葦津敬之/副会長:谷井博美/顧問:島田隆士/長尾洋二/武藤美奈/岩永昌子/金崎邦寿/青柳舞

編集・制作

編集・執筆:青柳舞/校正:宗像現代美術展実行委員会

デザイン:IWAKOdesign/写真:川嶋克写真事務所

制作年:2022年12月26日

Instagram



Facebook



WEB



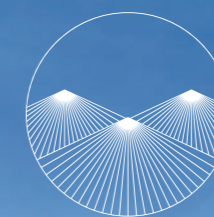
主催/西日本新聞社、宗像現代美術展実行委員会 共催/宗像大社
後援/宗像市、宗像市教育委員会 特別協賛/久原本家グループ

お問い合わせ/宗像現代美術展実行委員会

〒811-4175 福岡県宗像市田久2-11-12-202 (galley wabi内)

Tel.080-3901-6595 Mail.info@miare-art.com

<https://miare-art.com>



宗像みあれ芸術祭

M u n a k a t a M i a r e A r t F e s t i v a l

2022年 実績報告書

宗像みあれ芸術祭

神々とともにアートが海からやってきた!

宗像現代美術展実行委員会は、若い世代の美術・文化教育の機会減少を危惧して学びの場や方法を教育機関以外でも増やし、アートの方で社会課題を解決し、地域の未来の発展につなげていくことを目指しています。子どもの視点を大切にしながら創造的な活動を広げる、地域創生型の芸術祭の立ち上げの年となった2022年。毎年10月に行われる宗像大社の秋季大祭「みあれ祭」の伝統神事の時期に開催することから、芸術祭の名称は「宗像みあれ芸術祭」と決定しました。

第1回目となる本年は9名の美術・工芸作家に多彩な技法で、宗像の文化や場所の意味を読み解き、この機会にしか出会えない作品を紹介しました。地域の祈りとアートをつなぐという新たな挑戦を行い、宗像大社を会場に、立ち入ることができない聖なる世界遺産・沖ノ島をはじめとした宗像の信仰がなぜ続いてきたのか。そのことに想いをはせるきっかけとなり、約3万人の来場者にご覧いただけました。また赤間宿にある会場でも作品鑑賞やイベント参加を目的に多くの方々の交流が生まれました。アート作品を通して、はるか昔から現代までの時間を巡らせ、未来のあり方を描ききっかけになれたと思います。



秋季大祭の1日目に行われる「みあれ祭」。沖ノ島、大島の神々を船団たちがお出迎え



樹齢200年以上のクロマツが広がるさつき松原



第1回芸術祭の参道での作品のひとつ。永武作、大社の森の精霊たち



彫刻家・中西秀明のアトリエでの制作の様子



アニメーション作家わださくみによる、子ども向けのワークショップを開催



9/24.芸術祭告知イベント。オンライン同時開催も実施

参加作家

橋口屋・赤馬館	宗像大社
石渡真紀(手漉き和紙)	石渡真紀(手漉き和紙/屋内)
永武(版画・オブジェ)	永武(オブジェ・インスタレーション/屋内外)
大野佳典(陶芸)	大野佳典(陶芸/屋内)
木寺一路(写真)	重松希(彫刻・インスタレーション/屋外)
中西秀明(彫刻)	中西秀明(彫刻/屋外)
Atelier Nakamura(彫刻)	ハマカタクオ(絵画/屋内)
わださくみ(アニメーション)	Atelier Nakamura(絵画/屋内)
	わださくみ(アニメーション/屋内)
	中西久吉(彫刻/屋外)

会場・実施期間

宗像大社

祈願殿▶10/1(土)~10/10(月・祝)
 屋外▶10/1(土)~10/30(日)
 時間▶9:00~17:00
 屋外▶10/1(土)~10/30(日)
 時間▶9:00~17:00
 福岡県宗像市田島2331



ふだん入ることができない参道の森の中にアート作品が登場

古民家 橋口屋

期間▶10/1(土)~10/10(月・祝)
 時間▶11:00~17:00
 福岡県宗像市赤間3丁目3-12



建物の歴史を物語る作品が、来場者を出迎える

街道の駅 赤馬館

期間▶10/1(土)~10/30(日)
 時間▶10:00~17:00(月曜日休館)
 ※祝日の場合は翌日
 福岡県宗像市赤間4丁目1-8



多くの人が交流する喫茶スペースに作品を展示

主催 西日本新聞社、宗像現代美術展実行委員会
 共催 宗像大社
 後援 宗像市、宗像市教育委員会

特別協賛 久原家グループ
 公式URL <https://miare-art.com>
 入場料 無料

総入場者数 30,000人※ (うち橋口屋 700名)

※各会場に作品が分散しており、屋外展示作品もあることから、芸術祭のために訪れた実人数やすべての作品ごとの来場者数を把握することができない。このため、作品の配置状況や来場者の鑑賞ルート、当日案内パンフレットの配布数等を考慮のうえ、芸術祭全体の来場者数としている。橋口屋はカウントした数字を記載。

プロジェクト活動（開催までの道のり）

- 2022年5月1日 実行委員会を立ち上げ、趣旨に共感するメンバーを揃え打ち合わせを開始。
以後、定例会議開始。宗像市市民活動団体に登録。会場を決め、参加作家への本格的なお声掛けを実施するとともに、より具体的な計画書を作成し始める。
- 2022年5月 中旬 宗像市へ文化芸術活動事業補助金申請。協力者をさらに集める。
- 2022年6月 地域の企業を中心に活動にご理解いただき協賛いただける方々へ会いに行く。
各作家との会場打ち合わせ。趣旨を説明し、会場にふさわしい作品制作を依頼。
- 2022年7月 月上旬 タイトル・ロゴが決定し、芸術祭の告知のために告知物パンフレット・web制作を開始。
- 2022年8月 中旬 ボランティア参加者への声掛けを始める。
告知物ができあがり全国の美術館、地域の教育機関、施設などへ発送。(パンフレット制作部数3万部)
引き続き、各団体へボランティア協力を呼びかけ。開催期間中の運用も固めだす。
- 2022年8月 下旬 宗像大社にてアーティストによる作品制作の説明会。ワークショップのボランティアリーダーを決める。
- 2022年9月 月上旬 看板サイン、作品説明・案内パンフレット制作、ボランティアの制服制作。
- 2022年9月 下旬 アート作品搬入・設置。ワークショップ開催、及び広報取材対応など実施。
- 2022年9月24日 告知イベントを実施し、芸術祭の趣旨を参加者へ紹介。
- 2022年10月 芸術祭開始。3か所の会場でそれぞれのイベントを実施し、作品の解説や管理を行う。ボランティア59名がサポート。
- 2022年11月 芸術祭終了後、作品を搬出。ボランティアの皆様と打ち上げをし、次回の期待の高さを確認。

広報取材実績

メディア取材

- 9/15(木) 宗像経済新聞webでの情報掲載
- 9/23(金) 南日本放送(鹿児島MBCラジオ)生放送出演
- 9/26(月) 九州・山口の展覧会情報&アートカルチャーWEBマガジン
アルトネ イベント情報掲載
- 9/29(木) 西日本新聞 まちなび イベント情報掲載
- 9/30(金) RKB『金曜ビッグバン!』生中継 イベント紹介
- 10/4(月) NHKロクいち!福岡 地域ニュースにて取材・紹介



参加作家やイベントを紹介する告知パンフレット



8月、宗像大社にて発送作業。全国の美術館や地元の教育機関へ届ける



宗像大社入口の看板



宗像大社参道で、一般の方々と作品制作をする様子



9月下旬、祈願殿にて作品を搬入・設置



ボランティアの方々と一緒に参道へ大型彫刻作品を運ぶ



橋口屋での作品搬入風景



参道を飾る「泳ぐ森の鳥」のワークショップ準備風景



子どもも集中して楽しんだアニメの仕組みを学ぶワークショップ
撮影:川嶋 克



芸術祭終了後の打ち上げ。作家とボランティアの方々の交流

作品介绍 [宗像大社]

宗像大社 参道 + 高宮祭場 (屋外)

中西 秀明 (彫刻)



彫刻家・中西秀明 搬入後説明の様子



【風位 2022-MUNAKATA. 三女神の休息所】



中西久吉 (彫刻) ※祈願殿前屋外展示



多くの子もたちが作品に触れて、身近に感じる



宗像大社の秋季大祭期間中、三女神だけが座れた作品

永 武 (オブジェ・インスタレーション)



宗像大社の森の妖精たちのひとつ。象徴的に森に佇み来場者を見守る



参道に設置した約40体の作品。ひとつひとつ探して森を巡る鑑賞者



「落ち葉の巨塔」のワークショップ風景



参道から出迎える小さな作品たち

宗像大社 参道 + 高宮祭場 (屋外)

重松 希 (彫刻)



鉄やアルミ素材でやさらかな風景を描く「宗像大社の森の音」
宗像の自然や風景から着想を得た「大きな雲のはなし」(下)



作家手作りの案内看板



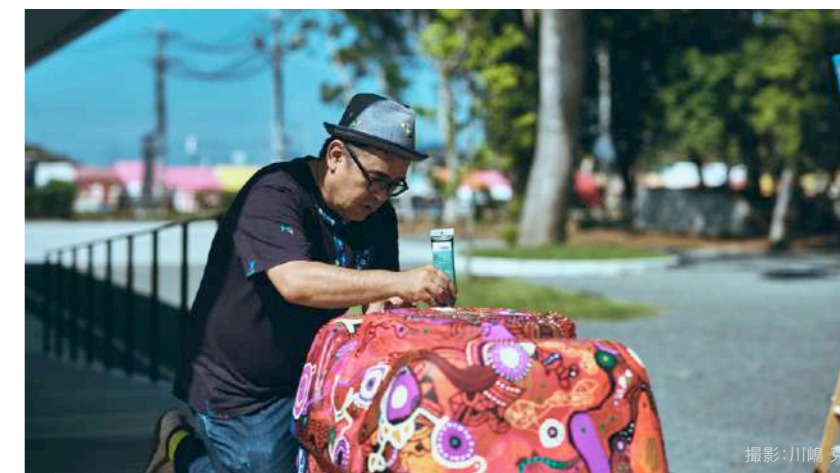
作品設置風景

宗像大社 祈願殿 (屋内)

ハマカタコオ (絵画)



作品「ざる絵」の舞シリーズが祈願殿休憩所を華やかに飾る



会期中、祈願殿の前での作品制作風景。自然と来場者も集まる



作品タイトル「さきわいの樹 おきなな舞」



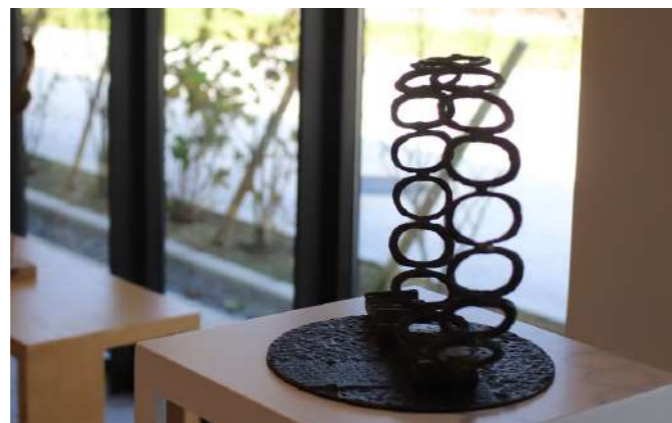
作品は鎮守の森で遊んだ作家の記憶や森の中の不思議な体験を表現



ライブペイントのようにその場で作品が変化していく



祈願殿を飾る永武の作品たち



元素との対話から生まれた不思議なバランスの鉄の彫刻作品

わださくみ（アニメーション・イラスト）



新たな生命の息吹を感じる
レンチキュラー作品「呼吸」

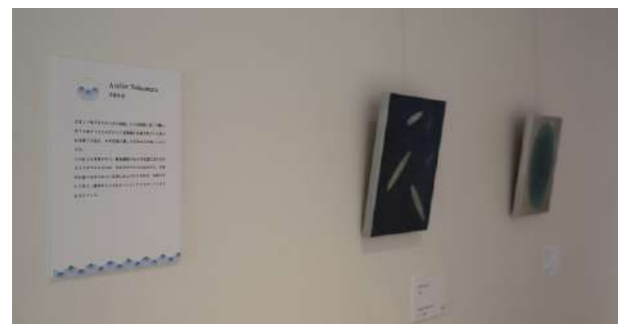


作品設置風景



祈願殿で休憩する人々を楽しませてくれるアニメーション作品

Atelier Nakamura（絵画）



新作「時と十字路口」などの平面作品



作品設置風景



「願いと導き」。アルミ素材で繊細な
星の輝きを表現

石渡 真紀（手漉き和紙）



日本各地の和紙を使った花の作品



作品設置風景。大輪の花々が会場を飾る

作品介绍 [橋口屋・赤馬館]

中西 秀明（彫刻）



作品タイトル「層位2022-HASHIGUCHIYA」2022年

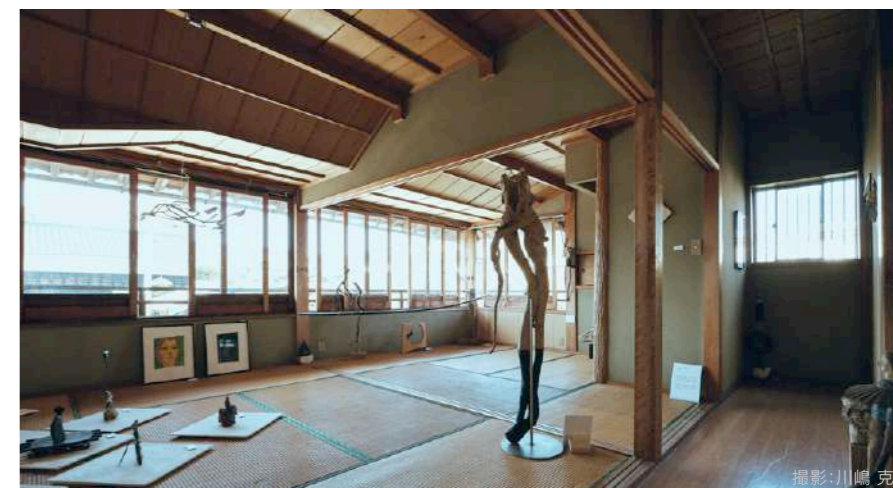


蝋燭を作る機械をつくっていた橋口屋の歴史を表現した作品に火を灯す

永 武（版画・オブジェ）

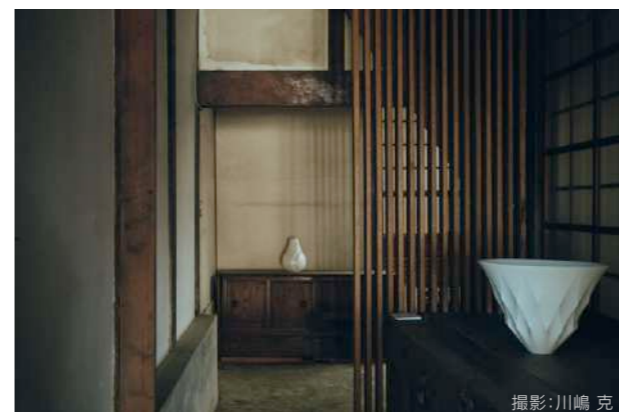


流木や廃材を素材にしたオブジェ制作はもう20年になる



「新しく命を吹き込まれた作品に優しく声をかけてもらいたい」と話す作家

大野 佳典（陶芸）



暗間をはらんだ空間に、輪郭を浮かび上がらせて作品が存在感を放つ



光によって面と面が出逢い、
1本の線の美しさを伝える白磁



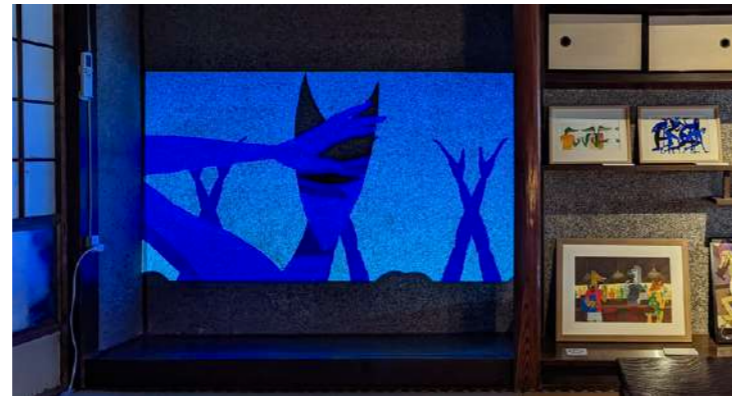
光と影を内包し、どこか温かみを感じさせる

赤間地区 橋口屋

わださくみ (アニメーション・イラスト)



愛嬌のある表情や動きのある恐竜たち



アニメーションという技法で物理的制約のないダンスをユーモラスに魅せる

Atelier Nakamura (彫刻)



人と場所の間にある“対話”を主題に、時間を超えた風景を表現



土間のある橋口屋に展示された「団楽-間」



橋口屋の住人の記憶を背景に作品同士が呼応し合う

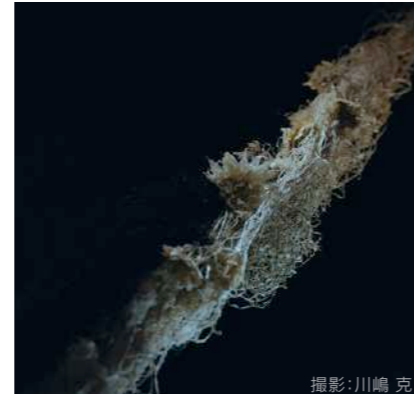
石渡 真紀 (手漉き和紙)



日本古来の和紙が歴史ある家屋と共鳴する



作家の手により古文書が花となり息を吹き返す



一本一本紡がれた和紙がやわらかな光を浴びる

木寺 一路 (写真)



中庭の自然光の中にも作品を展示

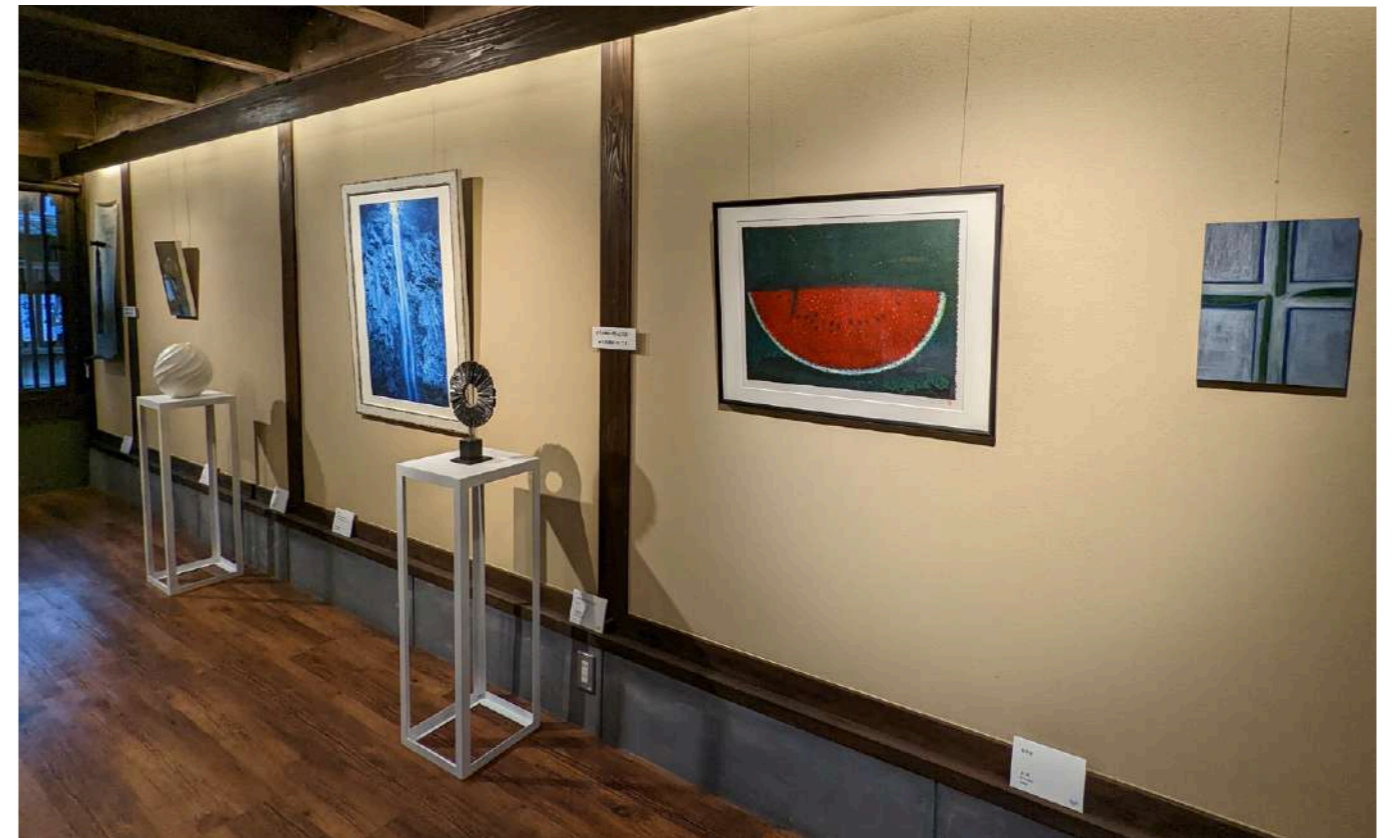


自然の中に感じる日本人の美意識を写真作品として表現



古民家の光のなかで浮かび上がる厳かな滝の作品

赤間地区 街道の駅 赤馬館



宗像の美味しいものが揃うお買い物スペースや喫茶スペース、赤間宿の歴史がわかる展示室、ワークショップなどイベントも開催できる広い和室など、多彩な機能を備える施設。会期中1か月間、喫茶スペースの壁面にオブジェや平面作品を展示した

街道の駅 赤馬館 ワークショップ会場

イベント名	アニメーションの原点。動く紙人形をつくろう	講師	アニメーション作家 わださくみ
開催日	10月1日(土)	場所	街道の駅 赤馬館
		参加者	17名
		参加料	500円



【参考】街道の駅 赤馬館 来場者数

	2021年度	2022年度	前年度比
10/1~10/10	1,179人	2,031人	172%
10/1~10/26	2,667人	2,946人	110%

橋口屋会期(10/1~10/10)の影響を受け、最初の10日間は来館者数が前年度同期比 **172%**

1か月で見ても前年度同期比 **110%**

コロナ感染による外出行動の回復も影響があると思われるが、メイン会期で見えるように、**芸術祭効果で地域の来客が増えた**ことが伺える。

アートにふれる作品制作&ワークショップ

イベント名	古民家で味わう読書のすすめ—谷崎潤一郎「陰影礼讃」—	講師	野田康文(近代文学研究者・文芸批評家)
開催日	9月24日(土)	場所	古民家 橋口屋
参加者	30名	参加料	無料



イベント名	赤間宿・橋口屋で過ごすバンドネオン演奏	講師	バンドネオン奏者 川波幸恵
開催日	10月2日(日)	場所	古民家 橋口屋
参加者	37名	参加料	1,500円

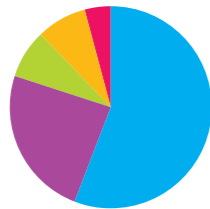


イベント名	ビー玉で描くたまゆらアート体験 in 宗像大社	講師	イラストレーター ハマカタコオ
開催日	10月9日(日)	場所	宗像大社 清明殿
参加者	14名	参加料	500円



芸術告知イベント 古民家で味わう読書のすすめ / 参加率 100%、回答率 77%

知るきっかけ



- 友人・知人
- 宗像みあれ芸術祭パンフレット
- その他
- 宗像みあれ芸術祭ウェブサイト
- 市広報

感想

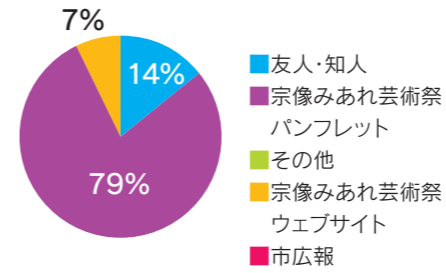
- 読書会、また参加したいです。
- 文学と歴史、文学と宗教などのテーマの組み合わせも聞いてみたいです。
- 妖怪の格好をして赤間宿を練り歩く「百鬼夜行」イベントとかはどうでしょう。
- また、このような読書会を催してほしいです。気づきがたくさんありました!

次年度以降開催してほしいイベントは?

- 人形浄瑠璃、御神楽などのイベントもして欲しい。
- 橋口屋さんで聴く音楽演奏会。
- 楽器を使ったコンサート、私は特にピアノ演奏が好きです。
- 初めての参加で、実際参加したいなと思いました。
- 宗像の歴史的建築を巡るナイトウォーク。
- 宗像が舞台になっている小説を読み解く。(例:織幡神衣)

アニメーションの原点。動く紙人形をつくろう / 参加率 85%、回答率 82%

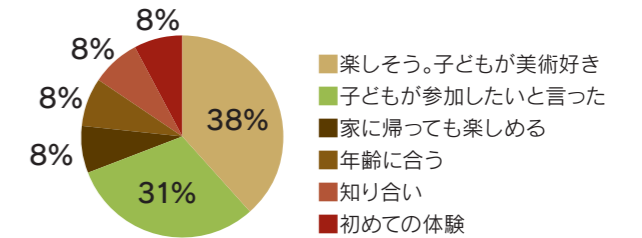
知るきっかけ



感想

- 子どもの成長を感じた
- 生活にアートを感じた
- 新しい体験ができた
- 家でもやってみたい

参加理由

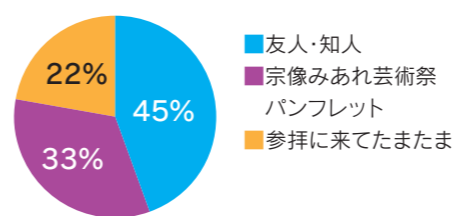


次年度以降開催してほしいイベントは?

- 同じようなイベントや、「男の子」が参加できる体験・工作があるとうれしい。
- 子どもが楽しめるワークショップが増えると嬉しい

ビー玉で描くたまゆらアート体験 in 宗像大社 / 参加率 70%、回答率 64%

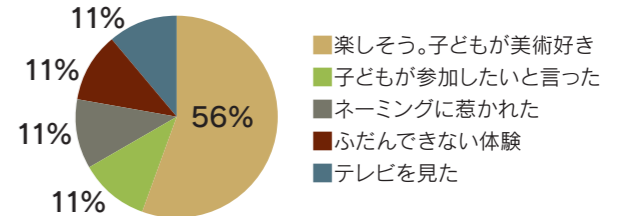
知るきっかけ



感想

- 家でもやってみます
- ビー玉という身近な素材での楽しみ方に感動
- 先生がやさしくて面白い
- 未知体験

参加理由



次年度以降開催してほしいイベントは?

- 家でさせてあげられないようなこと
- 作品をつくるイベントに参加したい

ワークショップ: 美術家・永武さんと作品をつくろう in 宗像大社 屋外

イベント名	「落ち葉の巨塔」制作	講師	美術家・永武
開催日	9月25日(日)	場所	宗像大社
参加者	15名	参加料	無料

イベント名	「泳ぐ森の鳥」制作	講師	美術家・永武
開催日	9月25日(日)	場所	宗像大社
参加者	親子10組	参加料	無料

イベント名	「笹舟の群泳」制作	講師	美術家・永武
開催日	10月1日(土)	場所	宗像大社
参加料	無料		



地域内外の交流が生まれた運営のまとめ

ボランティア報告書

ボランティア募集時期

今期／8月下旬～期間中

今期は、募集時期が8月下旬と出遅れた。募集するターゲット層や団体など具体的に落とし込みができていなかった。募集に関する情報・ツールなどが不足しておりターゲットの絞り込みや情報がない状態であった。

来期／春～9月中旬

来期は、募集する準備期間を設け、募集先の選定(団体・学校関係など)し、募集先の特徴に合わせた募集とボランティアの囲い込みが必要。

ボランティア募集先

今期／パンフレット・SNSによる一般募集・福岡教育大学・日本赤十字九州国際看護大学・東海大付属福岡高等学校

来期／パンフレット・SNSによる一般募集・福岡教育大学・日本赤十字九州国際看護大学・東海大付属福岡高等学校

その他、団体と今回参加されたボランティア

ボランティア参加実績

今期／合計 59名

一般ボランティア・・・36名(教育大学生も含む)

宗像歴史観光ボランティア・・・15名

東海大付属福岡高校・・・8名

来期／合計 120名

一般ボランティア・・・50名

福岡教育大学・・・15名

宗像歴史観光ボランティア・・・15名

東海大付属福岡高校・・・10名

その他団体・・・30名

一般ボランティアは、SNSで早期に募集を図り、パンフレットでの配布で最終募集を実施する。教育関係は、早期から告知イベントなどを仕掛け、ボランティア要因の囲い込みをする。その他団体についても同様、先手のアプローチで情報収集し具体的な内容で囲い込みを図る。

会期中の運営

今期／稼働イベント数・・・39イベント(通常展示を含む)

参加延べ動員数(実行委員含む)・・・227人

ボランティア・・・131人

実行委員・・・96人

来期／稼働イベント数・・・50イベント

参加延べ動員数(実行委員含む)・・・400人

ボランティア・・・240人

実行委員・・・150人

来期については、ワークショップや告知イベントが増えること。会期中の期間は圧縮されるだろうが、会場が大きくなることを考慮した。



実施場所(宗像大社)

屋外／高宮参道付近

参道からの展示については、参拝客の誘導もしやすく、チラシがあることでお客様への案内がしやすかった。チラシの内容をもう少し充実させる必要がある。展示場所にも配慮が必須である。

屋外／高宮祭場

今回、人員を割り当てられなかったが、巡回時は、お客様に説明して興味を持っていただいた。

屋内／祈願殿

作品の配置は、作品によって見直しが必要である。祈願前の待ち時間の利用者へ配慮し、次回はより広いスペースを確保したい。

宗像大社・会期

10月1日～3日

1～3日は、秋季大祭のため変則的な会場となるので気を使っていたが、そこまでの影響はなかった。

10月4日～10日

秋季大祭も終わり落ち着いて案内ができています。この期間には、スタッフの対応も慣れてきていた。

10月11日～30日

平日は、屋外展示のみとなり十分巡回で対応できた。土日については、少し人数を増員して対応する必要がある。

搬入搬出・片付け

平日ということもあり、人員不足であったが、協賛先の福岡倉庫様の協力で実施できた。

ワークショップ

総評

展示やワークショップの演出などの段取りもできてはいたが、実施についての情報に欠けていた。ワークショップの内容の把握ができなかったことで実施概要などボランティアに仕事の割り振りがきちんできていなかったため現場での対応を余儀なくされた。ワークショップの内容によっては過剰人員に見えるものもあった。比較的、どのワークショップも好評に終わりはしたが、参加者を集める手段やチラシの見せ方など見直しは必要である。

今後の展望

子どもたちに誇れる海と生きる街へ

初年度となる芸術祭を無事に終了することができ、宗像大社や赤間宿を舞台に、アートを身近に感じていただき、そして、宗像の自然崇拝や祈りとつながる作品が新たな体験を生み出しました。農業、漁業、林業をはじめとした人々が綴ってきた営みの背景には、海があり、そこから世界へとつながっていった歴史があります。深いテーマとして「海」があり、小さな光が海とともに世界を潤し、そして、豊かな未来を描く姿を実現したいと考えています。

ビジョンとなる描きたい未来を言葉にすることで、第2回の会場や作家、展示方法などが決まっていきます。第1回の経験を踏まえ、地域(自然)と質の高いアートと子どもたちが呼応し合い、心ゆさぶる体験の機会となる芸術祭にしていきます。

全国から幅広いジャンルの芸術家を選定し、彼らが集結し、地域に深く入り込み、地域住民の方々と一緒に作り上げていく。そのプロセスを大切に、毎年継続することで地域の若い世代を中心に多くの方々に喜ばれる芸術祭となり、地元の人々が誇れる文化事業となることを願っています。

実力のあるアーティストや地域、行政や企業、個人の方々など幅広い世界から支援と協力を得ながら、子どもたちの成長とともに芸術祭のものを醸成させ、次世代にバトンをつないでいきたいと考えています。

